

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

26. 8. 2004

REC'D 15 OCT 2004

WIPO

PCT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 8 月 2 7 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 3 0 2 7 4 4
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 3 0 2 7 4 4]

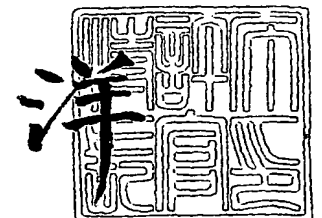
出 願 人 株式会社村春製作所
Applicant(s): 新倉計量器株式会社

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 4 年 9 月 3 0 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



【書類名】 特許願
【整理番号】 P2143H15
【提出日】 平成15年 8月27日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 B65B 43/26
【発明者】
 【住所又は居所】 神奈川県相模原市大野台 5-17-19
 【氏名】 村上 稔幸
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都千代田区神田司町 2-2 新倉計量器株式会社内
 【氏名】 新倉 基成
【特許出願人】
 【識別番号】 593016330
 【氏名又は名称】 株式会社村春製作所
【特許出願人】
 【識別番号】 393030545
 【氏名又は名称】 新倉計量器株式会社
【代理人】
 【識別番号】 100095326
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 畑中 芳実
【選任した代理人】
 【識別番号】 100094536
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 高橋 隆二
【選任した代理人】
 【識別番号】 100109243
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 元井 成幸
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 028912
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

基部に取付けられ複数枚の収納袋を装填する装填部材と、
前記基部に鉛直面内において回動自在に支持され中央部に物品投入用開口が形成されて
いるフレームとを有し、

前記装填部材に対向する前記フレームの端板が前記複数枚の収納袋を押圧保持するよう
にしたことを特徴とする物品収納装置。

【請求項 2】

前記フレームに、鉛直面内において回動自在に支持されているレバーが設けられ、このレ
バーに、回動されたレバーが自重により元位置に復帰する際に前記装填部材に装填されて
いる最前方の収納袋の開口内に挿入されてこの収納袋を拡開させる拡開アームが支持され
ていることを特徴とする請求項 1 に記載の物品収納装置。

【書類名】明細書

【発明の名称】物品収納装置

【技術分野】

【0001】

本発明は、収納袋を拡開して物品を投入して収納するための物品収納装置に係り、特に、使用単位にバックされた砂糖などの調味料やミルクなどを提供するために収納袋に投入して収納するための物品収納装置に関する。

【背景技術】

【0002】

従来から物品収納装置の一種として傘の袋収納装置が知られている。この傘の袋収納装置は、傘を先端から装置本体内に挿入すると、傘の先端が装置本体内に臨んでいる開放操作部材をばねに抗して下方に押動し、この開放操作部材に突設されている爪部材が開放操作部材の下方への回動に伴って収納袋の開口内に挿入されて収納袋を拡開し、この開口が拡開された収納袋内に傘が先端から挿入されて収納されることになる。

【0003】

【特許文献1】特開平7-205944号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、前述した特許文献1の傘の袋収納装置は、収納対象が傘という長尺のものであるため、装置全体も大型であった。したがって、この傘の袋収納装置を前述した使用単位にバックされた調味料などの収納に利用する場合、大きなスペースを必要とし、店舗のカウンターに設置するのが難しかった。

【0005】

そこで、本発明は、小型でしかも簡単に物品を収納することができる物品収納装置を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

前述した目的を達成するため、本発明の物品収納装置の特徴は、基部に取付けられ複数枚の収納袋を装填する装填部材と、前記基部に鉛直面内において回動自在に支持され中央部に物品投入用開口が形成されているフレームとを有し、前記装填部材に対向する前記フレームの端板が前記複数枚の収納袋を押圧保持するようにした点にある。

【0007】

また、本発明の他の物品収納装置の特徴は、前記フレームに、鉛直面内において回動自在に支持されているレバーが設けられ、このレバーに、回動されたレバーが自重により元位置に復帰する際に前記装填部材に装填されている最前方の収納袋の開口内に挿入されてこの収納袋を拡開させる拡開アームが支持されている点にある。

【発明の効果】

【0008】

本発明の物品収納装置は、装填部材に対向する前記フレームの端板が前記複数枚の収納袋を押圧保持するので、収納袋を保持するための独立した部材を必要とせず、小型化が可能となる。

【0009】

また、レバーと拡開アームを設けることにより、レバーを一方向に回動させるだけで簡単に収納袋を拡開させることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

図1ないし図3において、本発明の物品収納装置は、店のカウンターのような固定部材1に固定される金属製の基部10を有している。この基部10は、前記固定部材1の上面2上に位置し、この上面2に複数本のねじ3、3…により固定される基板11を備えてい

る。この基板 11 の端縁には、前記固定部材 1 の端面 4 に沿って垂下される支持板 12 が前記基板 11 と一体に連設されている。

【0011】

前記支持板 12 には、図 4 に示すように、後述する収納袋 40 を装填する 1 対の円柱状の支持ピン 13、13 が左右に間隔を隔てて突設されている。前記各支持ピン 13 の先端部には、前記収納袋 40 の脱落を防止するために前記支持ピン 13 より大径に形成された頭部 13a が形成されている。また、前記両支持ピン 13、13 間であって両支持ピン 13、13 より下方の前記支持板 12 には、ほぼ長形状をなす金属製の板ばね 14 の下端部 14a が 1 対のピン 15、15（一方のみ図示）により支持されている。この板ばね 14 の上下方向の中央部 14b は前記下端部 14a から折曲されて斜め上方に延在しており、この板ばね 14 の上端部 14c は、前記中央部 14b から前記下端部と平行となるように折曲されている。

【0012】

前記板ばね 14 の上端部には、最後位の前記収納袋 40 に当接するほぼ長形状の当接板 16 の上端部が 1 対のピン 15、15 により固定されている。また、この当接板 16 の上下方向の中央部には、前記板ばね 14 とほぼ同形の金属製の板ばね 17 の上端部 17c が 1 対のピン 15、15 により固定されており、この板ばね 17 の上端部 17c から折曲している中央部 17b は前記板ばね 14 の中央部 14b と平行をなすように当接板 16 から斜め下方に延在している。さらに、前記板ばね 17 の中央部 17b から折曲している下端部 17a は前記支持板 12 の近傍に支持板 12 と平行となるように臨んでいる。

【0013】

図 1 ないし図 3 に戻って前記支持板 12 の両側には前方に突出する左右同形のブラケット 18、18 が相互に面対称をなすように一体に突設されている。各ブラケット 18 の基端側の上端部には、それぞれ支軸 19 が両ブラケット 18、18 において同軸状に固定されており、両支軸 19 に後述する金属製のフレーム 21 が鉛直面内において回動自在に支持されている。さらに、前記各ブラケット 18 の先端側には、ほぼ長形状をなすゴム板 20 が他の保持板 21 との間に 1 対のピン 15、15 を介して挟持されるようにして保持されている。このゴム板 20 は、この物品収納装置を扱う人が操作に必要な部位以外に触れるのを防止するためのものであるが、設けなくともよい。

【0014】

前記フレーム 21 は、図 5 に示すように、前記両支軸 19、19 に回動自在に支持される回動基部 22 を有している。この回動基部 22 は、前記当接板 16 に対向するほぼ長形状の端板 22a を有している。この端板 22a の上端から前記基部 11 方向に延在するように扁平な頂板 22b が突設されており、この頂板 22b の先端からは下方に延在する同じく扁平な遮蔽板 22c が垂設されている。また、前記頂板 22b の各側縁からは、下端縁が前記遮蔽板 22c の下端縁と等しい高さに位置する被支持板 22d がそれぞれ垂設されており、各被支持板 22d には、前記支軸 19 が挿着される軸受孔 22e が両被支持板 22d、22d において同軸的に穿設されている。したがって、前記両支軸 19、19 を回動中心として前記回動基部 22 は鉛直面内において回動されることになる。

【0015】

前記端板 22a の前記各支持ピン 13 に対向する部位には、各支持ピン 13 の頭部 13a が遊挿される円形孔 22f が穿設されている。また、前記各ブラケット 18 の基端側の下端部には、前記回動基部 22 の端板 22a に当接し、前記回動基部 22 の端板 22a をほぼ鉛直状態において停止させるピン状のストッパ 23 が支持されている。

【0016】

前記回動基部 22 の端板 22a の上端部から下端までの両側には、前方に突出する左右同形の側板 22g、22g が相互に面対称をなすように一体に突設されている。前記各側板 22g の上端部の内側には、物品を後述する収納袋 40 内に投入する際に物品をガイドするために斜め下方に延在し下端部を鉛直方向下方に向くように折曲されている金属製のガイド板 24 が 1 対のピン 15、15 により固定されている。

【0017】

前記両側板 22 g, 22 g の先端部間には、金属製の回動規制部材 25 が固定されている。この回動規制部材 25 は、図 6 に示すように、端板 25 a を有しており、この端板 25 a の両側縁には、前記各側板 22 g に対向する被支持板 25 b がそれぞれ突設されており、各被支持板 25 b には、上下に間隔を隔てて 1 対の円形孔 25 c, 25 c 穿設されている。そして、これらの円形孔 25 c, 25 c に挿着された 1 対のピン 15, 15 により被支持板 25 b が固着されており、これにより前記両側板 22, 22 間に前記回動規制部材 25 が橋架されることになる。

【0018】

前記回動規制部材 25 の上端から前記回動基部 22 方向に延在するように頂板 25 d が突設されており、この頂板 25 d の先端からは下方に延在する扁平な遮蔽板 25 e が垂設されている。さらに、前記回動規制部材 25 には、左右に間隔を隔てて 2 本の同形のスリット 26 が形成されている。各スリット 26 は、前記端板 25 a の上下方向における中央位置から上方に延在し、頂板 25 d および遮蔽板 25 e をそれぞれ縦断して遮蔽板 25 e の下端縁において外部と連通されている。さらにまた、前記端板 25 a の下端縁には、前記両被支持板 25 b, 25 b 間に位置する扁平な底板 25 f が連設されている。

【0019】

前記回動基部 22 の端板 22 a、前記各側板 22 g に固定されているガイド板 24, 前記回動規制部材 25 の遮蔽板 25 e の内側には、物品が落下する開口 27 (図 1) が形成されている。

【0020】

前記回動規制部材 25 の内側となる部位の回動基部 22 の両側板 22 g, 22 g 間には長尺の支軸 28 が回転自在に支持されており、この支軸 28 には、レバー 29 が回転自在に支持されている。このレバー 29 は、図 2 に示すように、ほぼ長方形をなすレバー本体 29 a を有している。このレバー本体 29 a の両側には、それぞれこのレバー本体 29 a から直角に折曲されるようにして扁平な被支持板 29 b, 29 b が連設されており、両被支持板 29 b, 29 b には同軸状の円形孔 (図示せず) が穿設されている。そして、これらの両円形孔に前記支軸 28 が挿通されることにより前記レバー 29 は回動自在に支持されることになる。

【0021】

前記レバー 29 のレバー本体 29 a の上端縁には、前記各被支持板 29 b, 29 b の延長をなし上方に延在する 1 対のアーム 29 c, 29 c が連設されており、両アーム 29 c, 29 c 間には、上端部を彎曲形成してなる把手 29 d が一体に橋架されている。そして、前記レバー 29 が回動すると前記両アーム 29 c, 29 c が前記両スリット 26 内をスリット 26 の内側縁に接触することなく移動することになる。

【0022】

前記支軸 28 には、前記レバー 29 を、図 3 において時計方向に付勢するコイルばね 30 が巻回されている。一方、前記回動規制部材 25 の前記底板 25 f には、前記一方のスリット 26 の延長上となる部位にストッパ 31 が突設されており、前記コイルばね 30 により前記レバー 29 がほぼ起立状態となっているときに一方の前記被支持板 29 b に当接してそれ以上のレバー 29 の回動を拘束するようになっている。

【0023】

前記レバー 29 が前述した図 3 の起立状態にあるとき、前記レバー本体 29 a の上端は、前記回動規制部材 25 の頂板 25 d に近接した位置をとることになる。また、前記把手 29 d により前記レバー 29 を前記コイルばね 30 に抗して反時計方向に回動させて、前記各アーム 29 c が前記各スリット 26 の端板 25 a における端縁 26 a に当接したとき、前記レバー本体 29 a の下端部は、前記支持ピン 13 の頭部 13 a に近傍に臨むことになる。

【0024】

前記両被支持板 29 b, 29 b の下端部には同軸状の円形孔 (図示せず) が穿設されて

いる。そして、これらの両円形孔には支軸32が挿通され支持されている。この支軸32は、ほぼ逆三角形の平板状に形成され、前記レバー本体29aから下方に延在する拡張アーム33の両上隅部にそれぞれ形成されたブラケット33a、33aに挿通されており、前記拡張アーム33は前記支軸32に図3に示す位置から時計方向に回転しようように回転自在に支持されることになる。前記支軸32には、前記拡張アーム33を図3において反時計方向に付勢するコイルばね34が巻回されている。

【0025】

前記収納袋40は、本実施形態においては、合成樹脂フィルムなどにより図7に示すように、上部に挿入口40aを有するように封筒状に形成したもので、この挿入口40aにおける前片41上端部41aはU字状に折り返されている。図7においては、前記上端部41aを後側、すなわち後片42側に折り返したものであるが、前側すなわち後片42と反対側に折り返してもよい。また、前記後片42の上端部42aは、前片41の上端部41aよりも上方に突出し、この突出した上端部42aには、前記両支持ピン13、13が挿通される1対の掛止孔40b、40bが左右に間隔を隔てて形成されている。さらに、各掛止孔40bの直上の前記後片42の上端部には、収納袋40を下方に引くことにより前記掛止孔40bの上方が容易に切断されるようにするための切断線40cが各掛止孔40bにまで到達しないように形成されている。

【0026】

つぎに、前述した構成からなる本実施形態の作用について説明する。まず、図8に示すように、フレーム21を回転規制部材25、レバー29、拡張アーム33などとともに、正規の状態から時計方向に回転し、両支持ピン13、13に多数の収納袋40、40を各収納袋40の掛止孔40b、40bに係止することにより装着する。このとき、収納袋40の背部には、板ばね14、17により前方に付勢される当接板16が位置している。その後、フレーム21を回転規制部材25、レバー29、拡張アーム33などとともに反時計方向に回転する。すると、回転基部22の端板22aが前記両支持ピン13、13の間において板ばね14、17により前方に付勢される当接板16との間に多数の収納袋40を挟持することになる。

【0027】

このような状態において、図3に示す位置にあるレバー29を反時計方向に回転すると、レバー29はその各アーム29dが各スリット26の端縁26aに当接し、レバー29がほぼ水平方向になって停止する。このとき、拡張アーム33は、回転基部22の端板22aに当接することによりコイルばね34に抗して時計方向に回転し、その先端33bが最前端に位置する収納袋40の挿入口40aの上方に位置するようにして前記端板22aに沿うように鉛直方向に向いている。

【0028】

そこで、前記レバー29の把手29dから手を離すと、レバー29はその自重により時計方向に回転し、図3に示す位置に復する。このとき、拡張アーム33はコイルばね34の作用により、レバー29のレバー本体29aが傾斜状態を取っているにもかかわらず常に鉛直状態を維持してその先端33bが下向きとなって下降することになるので、拡張アーム33の先端33bが位置する収納袋40の挿入口40a内に次第に挿入されることになる。したがって、図3の状態に復すると、拡張アーム33は、収納袋40の前片41と後片42とを分離するようにして挿入口40aを拡張させることができる。

【0029】

そこで、前記開口から物品を投入すれば、物品は収納袋40内に確実に投入されることになる。その後、この物品が収納されている収納袋40を下方に引くと収納袋40の各切断線40cが各掛止孔40bまで到達し、この収納袋40を取り出すことができる。

【0030】

つぎの収納袋40を拡張させるには、レバー29を再度反時計方向に回転させたうえで手を離せばよい。

【0031】

以上説明したように本実施形態によれば、フレーム 21 を上方に回動させておき収納袋 40 を装着し、フレーム 21 を元に戻せば、フレーム 21 の端板 22 a により収納袋 40 を安定的に保持することができる。

【0032】

また、レバーを反時計方向に回動させるだけで、簡単に収納袋 40 の挿入口 40 a を拡開することができる。

【0033】

したがって、小型で簡単な構成により収納袋 40 の保持や拡開を行うことができる。

【0034】

なお、本発明は、前述した実施の形態に限定されるものではなく、必要に応じて種々の変更が可能である。

【図面の簡単な説明】

【0035】

【図 1】 本発明に係る物品収納装置の実施形態を示す平面図。

【図 2】 図 1 の正面図。

【図 3】 図 1 の右側面図。

【図 4】 図 1 の支持ピン近傍の構成を示す斜視図。

【図 5】 図 1 の回動基部を示す斜視図。

【図 6】 図 1 の回動規制部材を示す斜視図。

【図 7】 a は収納袋の正面図、b は収納袋の右側面図。

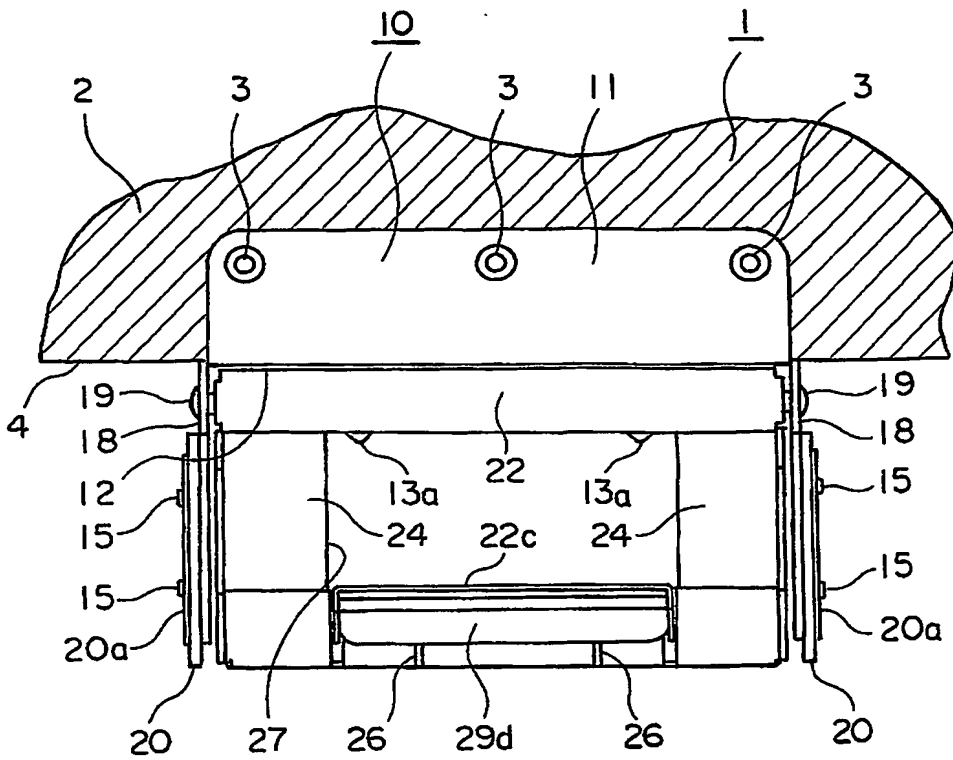
【図 8】 図 1 の実施形態において収納袋を装着する状態を示す右側面図。

【符号の説明】

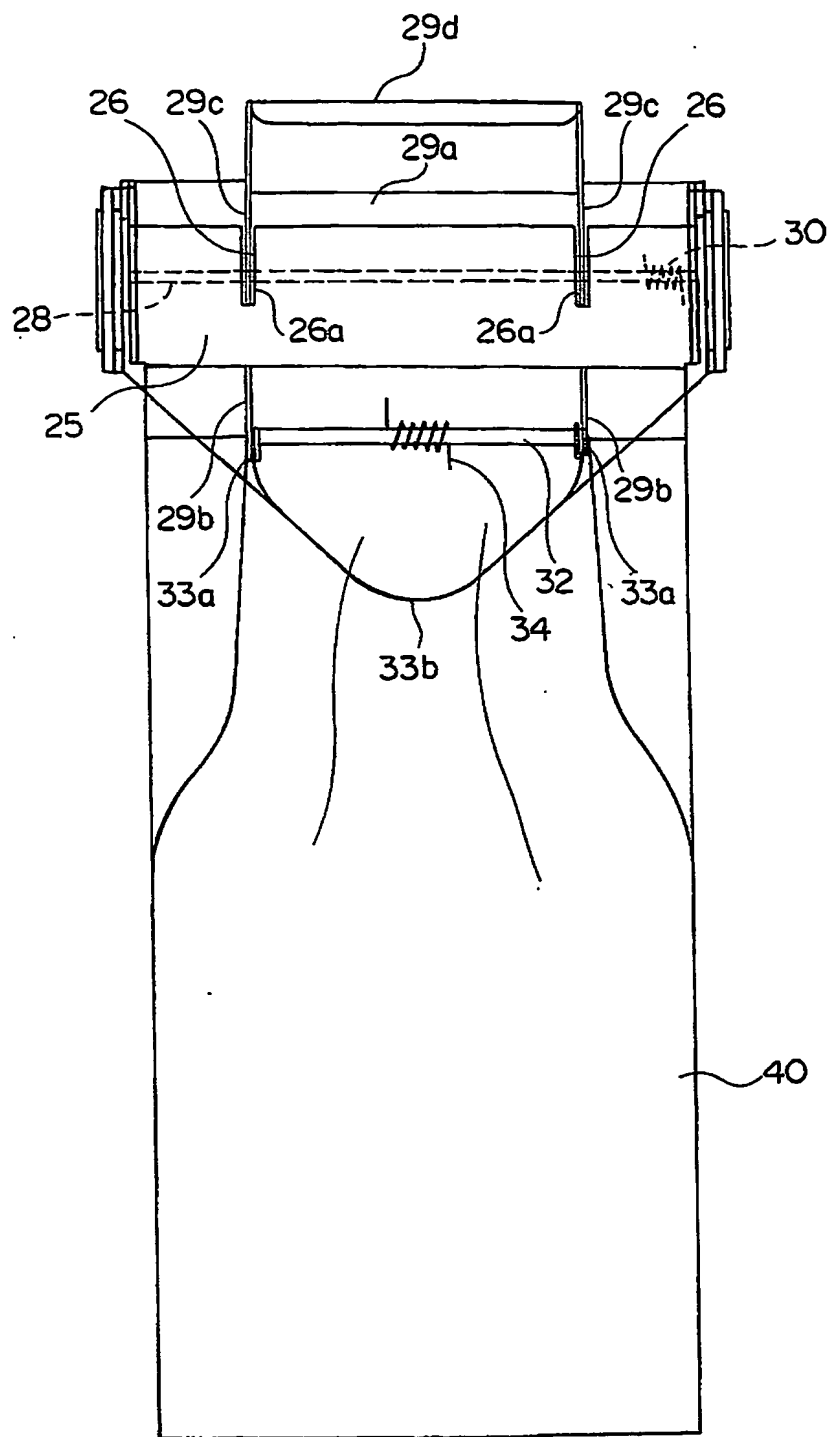
【0036】

- 1 固定部材
- 10 基部
- 11 基板
- 12 支持板
- 13 支持ピン
- 14 板ばね
- 16 当接板
- 17 板ばね
- 18 ブラケット
- 19 支軸
- 21 フレーム
- 22 回動基部
- 24 ガイド板
- 25 回動規制部材
- 26 スリット
- 27 開口
- 29 レバー
- 33 拡開アーム
- 40 収納袋

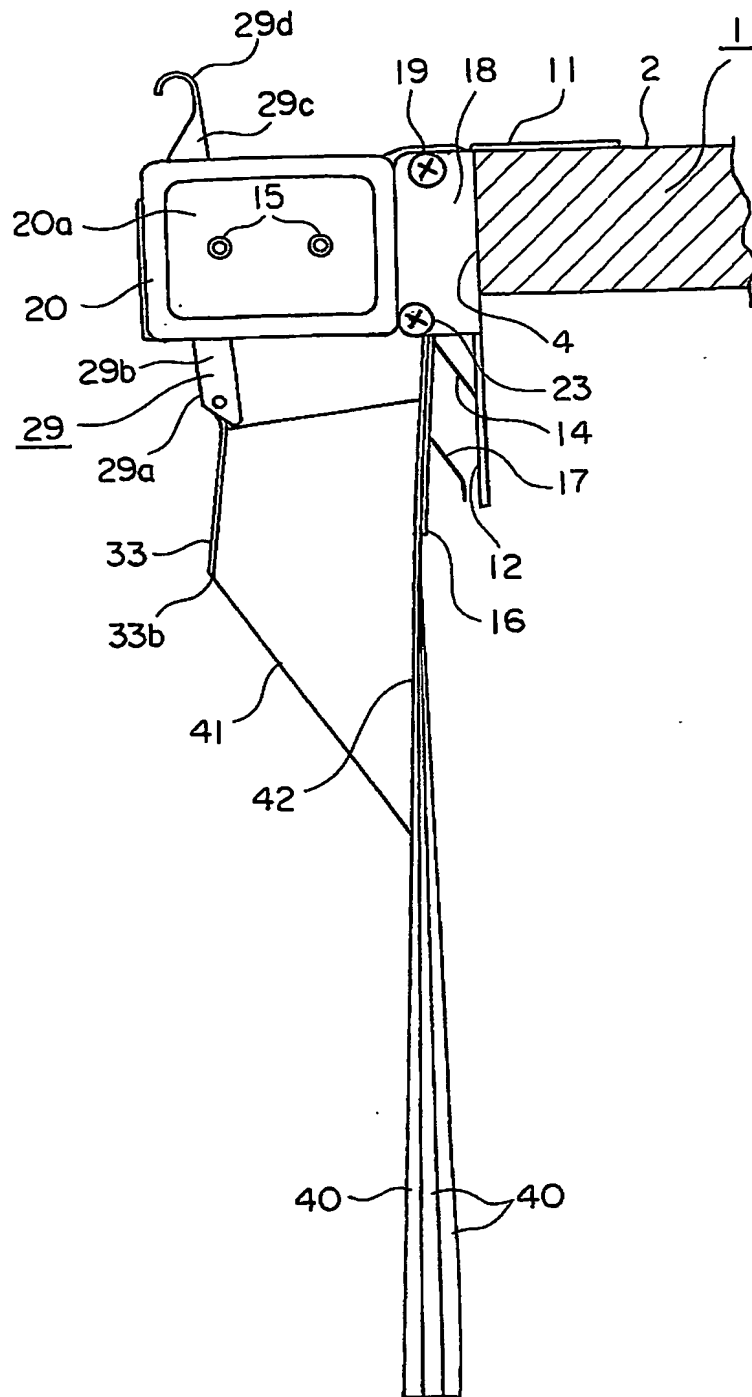
【書類名】 図面
【図 1】



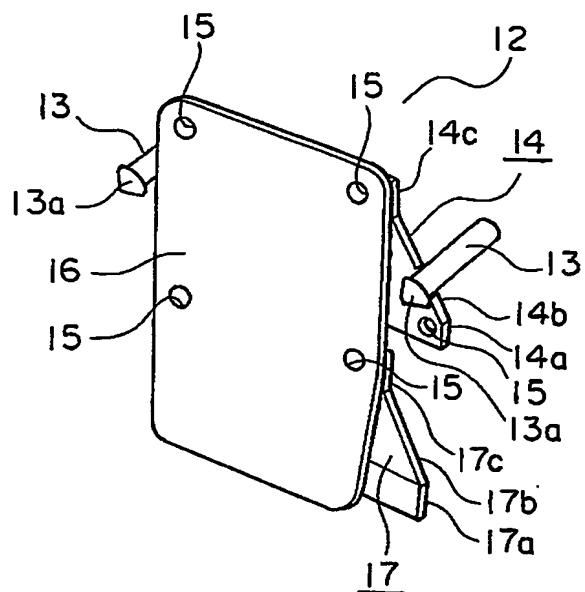
【図 2】



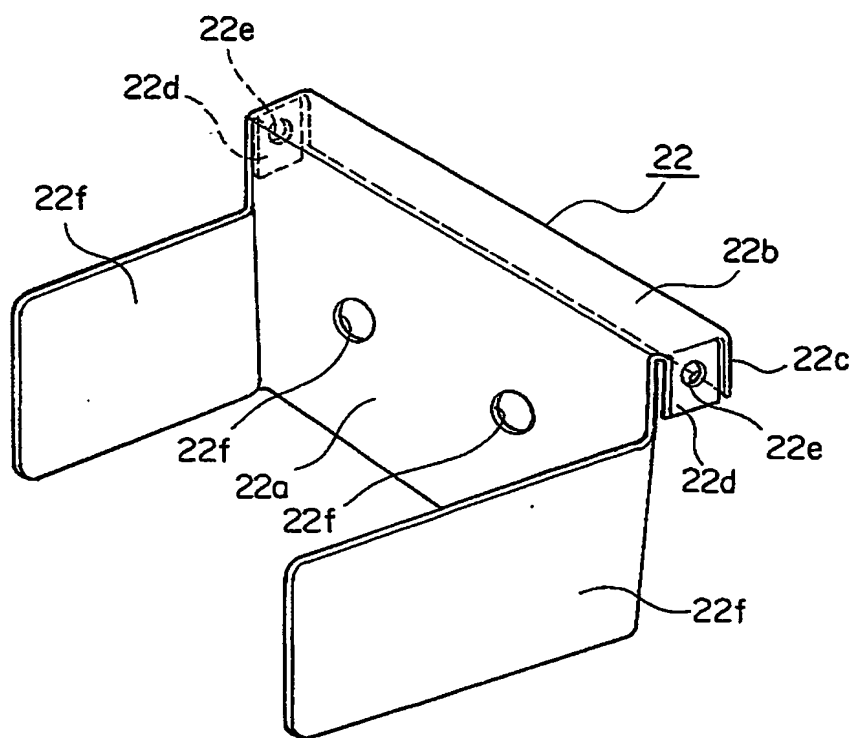
【図 3】



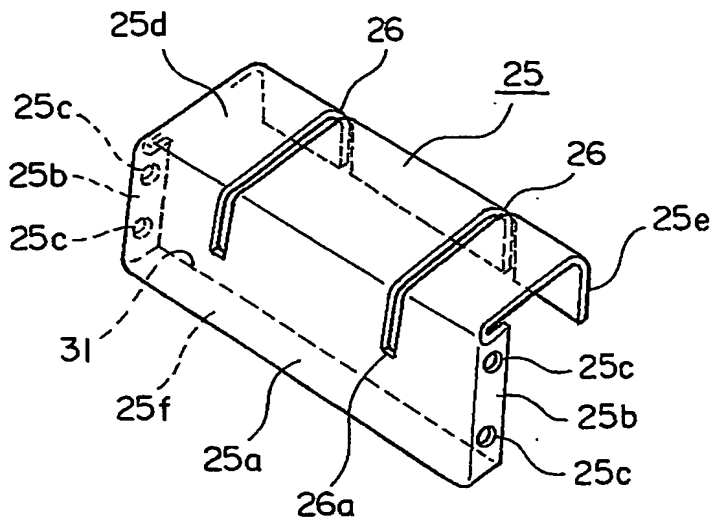
【図 4】



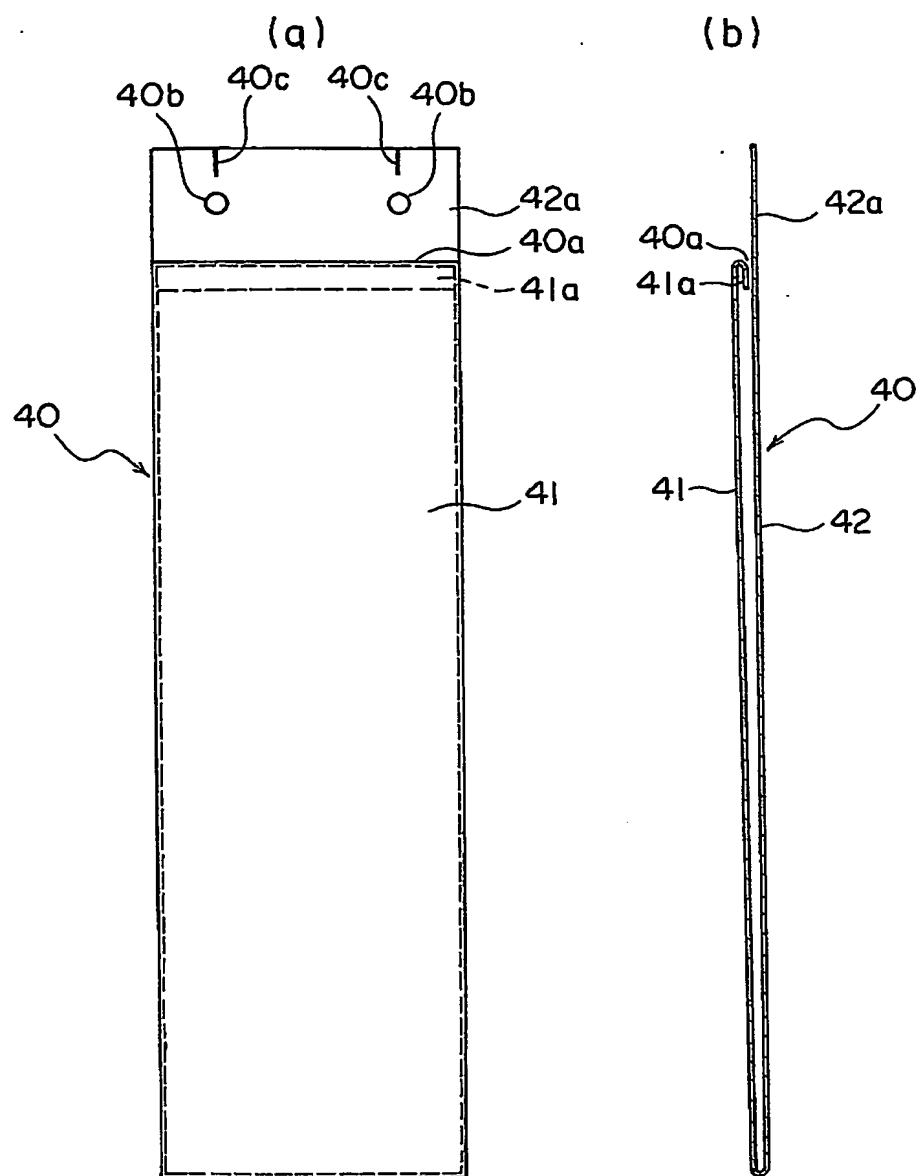
【図 5】



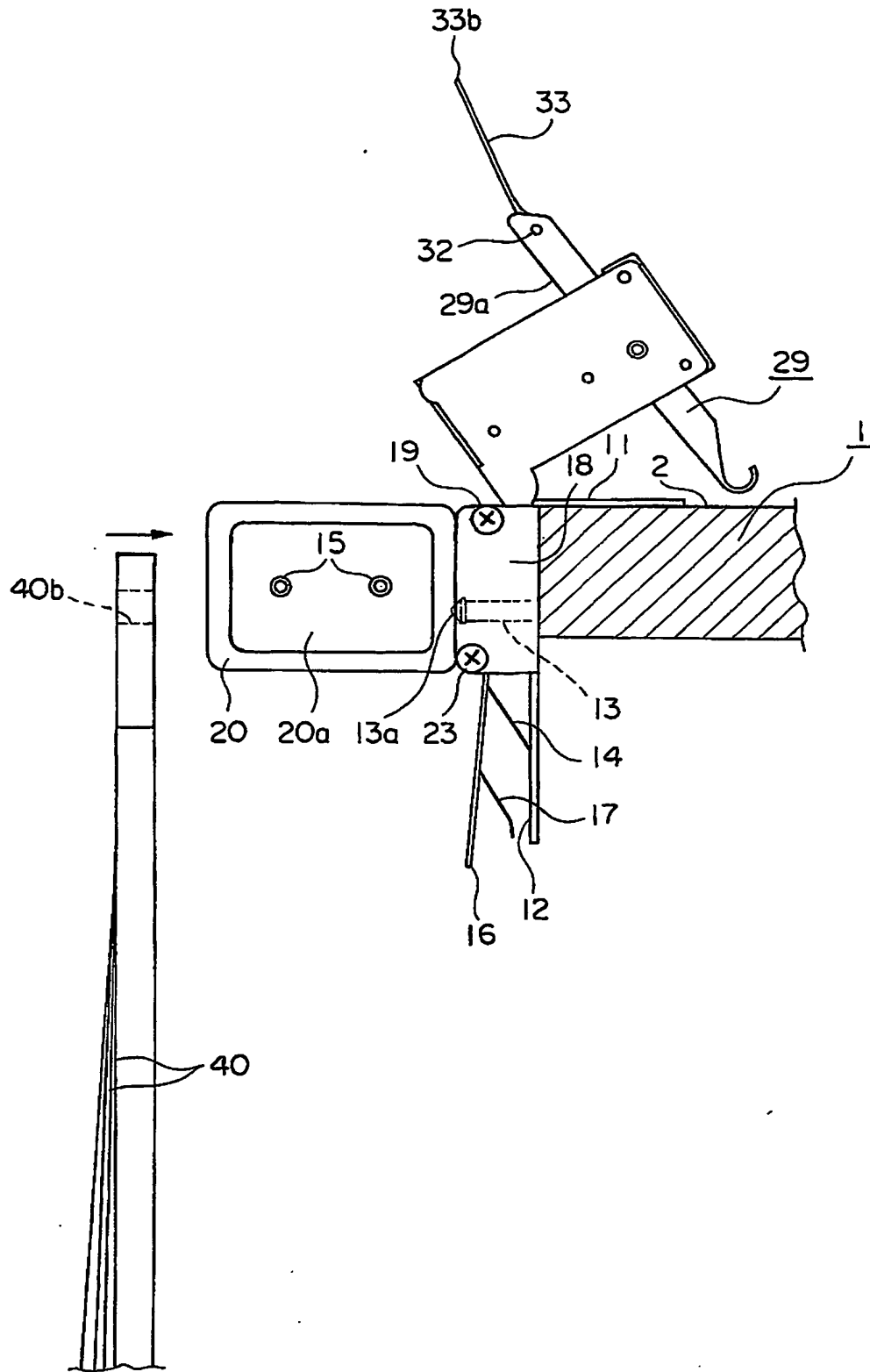
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 小型でしかも簡単に物品を収納すること。

【解決手段】 基部 10 に取付けられ複数枚の収納袋 40 を装填する装填部材 13 と、基部 10 に鉛直面内において回動自在に支持され中央部に物品投入用開口 27 が形成されているフレーム 21 とを有し、装填部材 13 に対向するフレーム 21 の端板 22a が複数枚の収納袋 40 を押圧保持するようにしたもの。

【選択図】 図 1

特願 2003-302744

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [593016330]

1. 変更年月日 1993年11月26日

[変更理由] 住所変更

住 所 神奈川県相模原市大野台5丁目17番19号
氏 名 株式会社村春製作所

特願 2 0 0 3 - 3 0 2 7 4 4

ページ : 2/E

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[3 9 3 0 3 0 5 4 5]

1 . 変更年月日

1 9 9 3 年 1 1 月 2 6 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都千代田区神田司町 2 丁目 2 番地

氏 名

新倉計量器株式会社